

場所	神奈川県川崎市
面積	0.96ha
活動目的	本サイトの生物多様性を保全、向上させることによって、浮島町をはじめとして川崎市の生物多様性向上や生態系ネットワークに貢献する。 また、本サイトの緑地が、自然と親しみながら生物多様性への理解を深める場として機能し続けられるよう維持する。



サイト概要	本サイトは、埋立地の川崎市浮島町に位置する花王株式会社川崎工場敷地内の緑地である。緑地は草地や樹林などからなる。緑地内に生育する樹木の多くは植栽由来であるものの、一部の樹林（西緑地）は、今では階層構造を持つ照葉樹林に生長している。 本サイトでは、2023年までの調査で、植物が286種、鳥類が25種、昆虫類が151種確認されており、緑地の少ない工場地帯において、多様な生き物の生育、生息基盤として重要な役割を果たしている。また、近隣企業と連携し、ビオトープ創出によるアカテガニの誘致やウマノスズクサの保全によるジャコウアゲハの個体数増加に取り組んでいるほか、観察会を実施するなど、環境教育の場として利用している。
-------	--

土地利用の 変遷

昔は海だったが、神奈川県の大埋め立てにより浮島町を造成（1956年～1962年）。1962年に花王株式会社川崎工場を現在地に建設。建設当時の敷地面積は約7ha、緑地面積は約2%以下であったが、2000年に隣地を購入し工場建設で残土を盛り上げ、西緑地を造成し、在来種を中心に植栽したことにより、現在では、敷地面積は約10.1ha、このうち緑地面積は約12%を占めている。

サイト周辺の 環境

本サイトが位置する浮島町は、多摩川、東京湾、大師運河、多摩運河に囲まれた埋立地の工業地帯である。町内の緑地は極めて少なく分断されている。特に、草地と樹林からなる複合的な緑地は浮島町公園、浮島JCT、本サイトの3カ所のみである。

アピール ポイント

- ・緑の極めて少ない埋立地の工場地帯において、様々な生き物の生育、生息環境として重要な役割を果たしている。
- ・本サイトの緑地を維持するために、外来種の除去や生き物に配慮した除草など、毎月保全活動を実施している。
- ・緑地を活用して社員やその家族、工場見学者などに生物多様性や環境に関する教育を行うとともに緑地の視察や観察会を実施している。
- ・緑地の植物が大気中のCO₂を吸収することにより、微力ながらも地球温暖化防止に貢献している。

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトの中心となる樹林（西緑地）では、社員や関係者、小学生等を対象とした観察会が実施されており、環境教育の場や自然と親しむ憩いの場として機能している。サイト内には樹林、草地のほか、ウマノスズクサの保全エリアや、新設したビオトープなどの小規模な池が存在する。サイト内では生き物に配慮した緑地管理が実施されており、多様な生き物の生育、生息環境として機能している。

【主な植生】

樹木の多くは植栽由来であるが、樹林では当該地域の自然植生構成種であるスダジイ、シラカシなどが優占し、階層構造を持つ照葉樹林が成立している。林内には人の目を楽しませるアジサイ類やツツジ類も植栽されている。草地にはチガヤなどが優占する低茎草地、ススキなどが優占する高茎草地が分布している。

【確認された主な動植物など】

- ・ 植 物：スギナ、イヌワラビ、スダジイ、アラカシ、シラカシ、ムクノキ、ドクダミ、シャリンバイ、アカメガシワ、アオキ、ネズミモチ、フキ、ヤブラン、ツユクサ、シュンランなど、合計286種
- ・ 鳥 類：キジバト、オナガ、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、メジロ、キビタキ、ハクセキレイなど、合計25種
- ・ 昆虫類：アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、ハラビロカマキリ、エンマコオロギ、ショウリョウバッタ、ニイニイゼミ、ヒメナガカメムシ、シロテンハナムグリ、ゴマダラカマキリ、イチモンジセセリ、アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモンなど、合計151種
- ・ 爬虫類：ニホンヤモリの1種
- ・ 魚 類：モツゴなどの2種
- ・ 底生動物：ヒメモノアラガイ、ショウジョウトンボ、ケシカタビロアメンボ、アカテガニなど、合計15種

※アカテガニは、底生動物調査時とは別のタイミングで新たに確認されたものである。



写真の説明：西緑地での観察会



写真の説明：保全地のウマノスズクサとジャコウアゲハ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイト内には、樹林や草地（低茎草地、高茎草地）、ビオトープの水辺など、複合的な環境が存在している。そのような中、特に本サイトに依存している種として、サイト内の草地から嘴に植物片を付着させて飛び立つ希少種に該当する鳥類の姿が確認されている。

【確認された希少種】

これまでの調査で、本サイト内およびその上空で「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」に掲載された希少種に該当する鳥類が確認されている。その希少種に該当する鳥類は、本サイト内の草地から嘴に植物片を付着させて飛び立つ姿が高頻度で確認されており（6カ年の調査のうち4カ年の確認）、本サイトの草地を採餌環境として利用しているものと推察される。



生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

本サイトの樹林（西緑地）に巣箱が設置されており、シジュウカラやスズメの利用が見られるほか、その他の鳥類の幼鳥が確認され、繁殖・採餌の場となっている。2023年に新設したビオトープ（池）は、定期的な水の供給により湛水管理されており、渡り鳥のキセキレイの休息の場として機能している。また、草地では、ウマノスズクサの保全によりジャコウアゲハの繁殖が確認されている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

【鳥類】

- ・本サイトの樹林において、シジュウカラやスズメの営巣（成鳥、幼鳥）をはじめとして、ヒヨドリやムクドリの幼鳥や親鳥からの給餌が確認されている。このことから、生き物が少ない工場地帯において身近な鳥類の繁殖の場として機能していると考えられる。
- ・秋季にキビタキ（成鳥）のビオトープへの立ち寄りが見られ、渡り鳥の休息の場として機能していると考えられる。

【昆虫類】

- ・本サイトに生育するウマノスズクサを保全することにより、これを食草とするジャコウアゲハの産卵や幼虫、成虫が多く確認されるなど、ジャコウアゲハの繁殖の場として機能している。

※ビオトープの創出やウマノスズクサおよびジャコウアゲハの保全は、近隣企業と協働の取り組みである。（生物多様性保全を目的としている。）



写真の説明：シジュウカラの幼鳥



写真の説明：サイト内のウマノスズクサの保全地

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
«生物多様性の保全» 活動 1：脅威への対策および本サイトの安全な利用のための維管理 （関連：価値(4)(6)(8)） 場所：本サイト全域 時期：3～5日間/月 内容：危険木・外来種の伐採、生き物に配慮した除草、緑地の 充実のための植栽、廃材再利用（エコスタック設置など）、 ナラ枯れ対策の薬剤散布 ※このほか、緑地の状況や散水状況などの確認や状況写真撮影の ため、1～3回/月の頻度で緑地パトロールを実施（大雨、 台風後は必ず実施） 活動 2：生き物の生息環境管理（関連：価値(8)） 場所：ウマノスズクサ保全エリア、ビオトープ、巣箱設置地点 時期：1～2回/週 内容：ジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサの保全 （選択的除草など） ビオトープにおける水位調整および緑藻類の除去など 巣箱の点検 ※ウマノスズクサの保全やビオトープでの活動は近隣企業との 協働の取り組みであり、必要に応じて随時情報交換を行う «生物多様性への認知度向上» 活動 3：社員（主に新入社員）を対象とした生物多様性に関する 普及啓発および自然観察会の実施（春季に1回/年） 活動 4：サイト内に生き物の紹介看板や植物銘板を設置 （2026年までに実施）	【モニタリング対象】 ①植物、鳥類、昆虫類（関連：活動 1、活動2） ②樹木（関連：活動 1） ③水生動物および鳥類（関連：活動2） 【モニタリング場所】 ①本サイト全域（ウマノスズクサ保全エリア、ビオトープを含む） ②西緑地 ③ビオトープ 【モニタリング手法】 ①任意踏査による目視確認 ②毎木調査による樹種、樹高、位置の記録および外来種の抽出 ③水生動物：任意観察、鳥類：自動撮影カメラによる連続観測 【モニタリングの実施時期及び頻度】 ①3年に1度、初夏～夏季に1回の実施を基本とする ②2024年～2026年にかけて実施する ③水生動物：2024年、2025年の初夏と秋に各1回、鳥類：2025年 の冬季に1か月間実施する 【モニタリング実施体制】 日々の緑地管理や樹木調査は株式会社昭和造園、モニタリングは株 式会社地域環境計画が中心となって、花王川崎工場従業員と協力し ながら実施